

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年9月号 通巻21号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキの子どもの成長は速い

そして旅立ちの季節へ



(左)7月中旬のお母さんと幼獣たち。体格差ははっきりしている。(右)8月末。左側はやや小柄なので幼獣とわかるが、右側は成獣か幼獣か識別不能。いずれも2010年、文京区で撮影。

タヌキの成長は速いものです。東京都23区でのタヌキの出産は5月上旬頃、それからたった3~4ヶ月ほどで幼獣は成獣並みの大きさになってしまいます。

7月までは親子の大きさは明らかに違います。また、成獣は毛がぼさぼさなので(冬毛が抜けていく途中なので)毛並みからでも区別はできません。ところが8月後半になると親子の体格は同じぐらいになり、単独で現れた時は親子の区別は一目ではわかりません。そこで、それぞれの個体の特徴を記録しておくようにしているのですが、確実な個体識別方法がないためにどれがどの個体かわからなくなってしまうことがあります。特に毛が冬に向けて長くなり始める9月ごろは特徴の追跡ができなくなり、個体識別もできなくなります。既に何年も観察していますし、ビデオで記録しているにもかかわらず識別は困難です。個体識別方法の確立はとにかく今後の大きな課題です。

新天地への旅立ち

成長した子どもたちはいつまでも親元で暮らせるわけではありません。10月ごろから子どもたちは親から独立し、どこかへ去っていきます。この時に何が起きているのか(親から追い出されるのか、自発的に出て行くのか)、子どもたちはどこまで遠くへ行くのか、その詳細はよくわかりません。何しろ24時間タヌキにはりつくことなど不可能だからです。

東京タヌキの目撃情報を分析すると、タヌキが最もよく目撃されるのは10月~12月ということがわかります。これは独立した幼獣たちがあちらこちらへと移動して、結果として行動範囲が広がるためではないかと考えられます。

生まれて半年ほどで独り立ちしなければならぬとは大変ですが、タヌキは生後1年で出産可能になります。いつまでも親に頼ってばかりはいられないのです。野生の世界は甘くはありません。

居残り組もいます

子どもたちの中にはそのまま親元に残る個体もいます。居残った若者は翌年は親の出産・子育てを手伝う「ヘルパー」という立場になるのではないかと考えられますが、これもどこまで親を手伝っているのかはわかりません。5月~8月の出産・子育ての時期に、お父さんお母さん以外の3頭目の成獣がいつしよにいるならば、それがヘルパーです。

9月になり、今年の子育てシーズンも終わりに近づきつつあります。間もなく旅立つ子どもたちにすばらしい新天地が待っていることを祈るばかりです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>